

理工系女子応援イベント「飛行機はなぜ飛ぶの」

三菱重工業株式会社 人事労政部 主席部員 鳥居小路 友貴

三菱重工業株式会社では、多様性を追求するダイバーシティ・マネジメントに取り組んでおり、その重点項目のひとつである「女性の活躍推進」の一環として、理工系女子の採用拡大につながることを目的に、2015年8月、女子学生の理工系への進路選択を応援する理科授業イベントを開催した。本稿では、イベントの内容や、開催に至った経緯等について紹介する。

◆三菱重工の女性活躍推進について

当社は、陸、海、空、そして宇宙にまで及ぶ多様な製品群を有し、「エネルギー・環境」、「交通・輸送」、「防衛・宇宙」、「機械・設備システム」の4つのドメインで事業を展開している。地理的な面でも事業領域は拡大しており、海外売上高比率は50%を上回っている。

今後、グローバル展開をさらに加速し飛躍するためのダイバーシティ・マネジメントの一環として、女性の活躍推進の取組を強化している。現在の取組テーマとしては、「女性従業員数の拡大」、「育児・介護中のキャリア支援」、「女性管理職の計画的な育成」、「風土醸成」の4項目を掲げ、中長期的には「2020年までに女性管理職者数（課長相当職以上）を2014年時点の3倍に引き上げる」ことを目標としている。

本稿で紹介する理科授業イベントは、上述の4テーマのうち、「女性従業員数の拡大」における具体的取組として実施したものである。

◆理科授業イベント開催の背景

「女性従業員数の拡大」を図るための活動としては、まず、単純に女性の採用数を増やすことが考えられる。当社は事業の性質上、エンジニアの採用、とりわけ工学部で機械・電気・材料等の各種工学分野を専攻する学生の採用数が最も多く、このカテゴリーでの女性の割合を増やすことが最も効果的である。ところが、日本では大学で理系へ進む女性の割合が低く、特に工学（機電系）においては約5～6%しかいない。この数少ない理工系的女子学生に当社を志望してもらうべく採用活動を展開してはいるものの、政府の『日本再興戦略』においても女性の積極的登用が掲げられたこと等もあり、「リケジョ」の採用はブームとなっ

ており、母数が圧倒的に少ないことは根本的な課題となっている。

このような状況下、昨年（2015年）6月、内閣府と日本経済団体連合会（経団連）との連携により、理工系学部への女子学生の進学を促進するための施策「夏のリコチャレ～理工系のお仕事体感しよう～」が打ち出された。経団連から会員各企業に対し、夏休み期間中に、女子中高生が理工系への関心を高めるような職場見学等のイベントの開催を要請、それらのイベント情報を、内閣府の女子中高生向けウェブサイト『理工チャレンジ』に登録、一元的に周知するというものである。

当社も前述の課題感を抱いていたことからこの施策に賛同し、女子中高生を主なターゲットとしたイベントを開催することとした。

◆当社イベントの内容

当社では従来から、CSR（企業の社会貢献）活動の一環として、主に小学生向けの理科授業を各地で開催しているほか、横浜・みなとみらいに「三菱みなとみらい技術館」をオープンしており、一般の方々、特に子どもたちが科学技術に触れる機会を提供している。今回、女子中高生向けのイベントを企画するにあたって、これらのリソースを活用し、三菱みなとみらい技術館を会場とした理科授業を開催することとした。

テーマは、当社が開発する国産初のジェット旅客機「MRJ」に設定した。MRJは、イベント実施の前年である2014年秋にロールアウト式典（お披露目）を実施、いよいよ初飛行を迎えるタイミングであり、各種メディアからも注目されていたことから、学生にとっても興味の湧きやすい題材と考えた。（補足：MRJは、理科授業開催の後、2015年11月11日に初飛行に成功）

7月中旬から上述の『リコチャレ』サイトや当社ホームページにて募集を開始、27名（うち男子7名）の参加を得て8月3日に開催の運びとなった。

まず冒頭に、女子学生に向けたメッセージを送るため、実際にMRJの製造部門で働く当社若手女性エンジニアを動員し、理系の進路を選んだきっかけや現在の仕事のやりがいについての講話の時間を設けた。

本編である理科授業は、小学生向けの理科授業で数多くの実績を有し、当社OBであり戦後初の国産旅客機「YS-11」の設計にも携わった山之内憲夫氏を講師に招いた。簡単な実験を交えながら飛行機が浮き上がり飛ぶ原理を学習したのち、実際に各参加者がMRJを模した紙飛行機を制作し、上手く飛ばすために調整していく中で、学んだ原理を実体験してもらった。

女性エンジニアに対しては、進路や仕事について多くの質問が寄せられ、理科授業についても、改良の末に紙飛行機が遠くへ飛ぶと会場では歓声が上がリ、大盛況のうちに終了した。終了後も、希望者は技術館内を自由に見学いただき、科学技術のおもしろさや、それを学ぶことの楽しさを十二分に味わっていただけたものと考えている。

◆今後に向けて

昨年のイベントは成功させることができ、参加者からも好評だったほか、メディアにも取り上げられ、反響の大きさを実感した。一方で課題としては、「周知の難しさ(中高生が企業のホームページを積極的に閲覧することは考えにくく、学校や保護者へのPRが必要)」や、「単発に終わらないための仕掛け(最終的に理工系の進路を選んでもらう動機付け)」といったことが挙げられる。

「リケジョ」の拡大にはまだ課題も多いが、本取組はその趣旨からしても、継続することが何より重要であり、今後も複数日程の設定やコンテンツ拡充等の工夫を重ねつつ開催していきたいと考えている。



【紙飛行機制作の様子】



【紙飛行機の飛行試験】



【全参加者で記念撮影】